

平成二十五年度入学試験問題（前期日程）

国語

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教育実践学専修 を受験する者は、一、二、三 について解答しなさい。

小・中学校教科教育コース 国語教育専修 および 特別支援教育コース 特別支援教育専修 を受験する者は、一、二、四、五 について解答しなさい。

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答時間は、一〇〇分である。
- 四、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

一 次の文章は、村田喜代子の小説「からだ」の一節である。主人公のわたしは、買い物帰り、思い立って母の家を訪ねる。七十歳近い母が元気であることを確かめると、坂を下って帰りを急ぐ。だいぶ降りたころ、「またきなさい！」という母の声がした。その声に、わたしは弟の言葉を思い出す。本文は、その場面である。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

非公開

(『文学2004』、二〇〇四年、講談社、一六九〜一七二ページ、抜粋)

問一 波線部 a、e の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- a 享年 b 寡婦 c 潜つて d 縫製 e 逼迫

問二 傍線部①②の本文中における意味として、最も適切なものを次の各群の A、オのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------|------------|
| ① 無欲恬淡 | ア 無欲で、優しい |
| イ 無欲で、話し好き | |
| ウ 無欲で、楽天的 | |
| エ 無欲で、優柔不断 | |
| オ 無欲で、物事に執着しない | |
| ② 陰々滅々 | ア 陰気で気がめいる |
| イ 陰気で活力がない | |
| ウ 陰鬱で嘆かわしい | |
| エ 瑞々しさを失っている | |
| オ 寂しくはかない | |

問三 傍線部 A「容れ物に恥じんといけんよ」とあるが、そのときの弟の心情を説明しなさい。

問四 傍線部 B「これらの小娘たちは雨上がりの水溜まりくらいだ」とあるが、どういう意味か。説明しなさい。

問五 傍線部 C「おれ、本当にあの人が生まれたと？」とあるが、なぜそう言ったのか。その理由を説明しなさい。

問六 傍線部 D「違うと思うてたの？」とあるが、そのときの「わたし」の心情を説明しなさい。

二

次の文章は、本居宣長の「ものあわれ」について書かれたものである。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

非公開

(森有正、『いかに生きるか』、一九七六年、講談社、一〇七〜一一三ページ、抜粋・一部改変)

問一 波線部 a、e のことばを漢字で表記しなさい。

- a そうじゅう b きび c するど(い) d おちい(る) e きよくげん

問二 1 に入る適切なことばを次の中から選びなさい。

- プリンシプル プロパガンダ プライオリティー プロット プログレッシブ

問三 2 ・ 3 に入る適切なことばを次の中からそれぞれ選びなさい。

- そして ところが すると しかも そこで

問四 傍線部 A「何の区別もない人間」とは、どのような人間をあらわすのか、具体的に説明しなさい。

問五 筆者はこの文章において、①本居宣長の「ものあわれ」と②ヨーロッパの「繊細な精神」、さらには③「一般にいう」ものあわれ」とを対比させている。この三者の共通点と相違点について、本文の趣旨を踏まえて説明しなさい。

(三) は、学校教育教員養成課程 小学校教育コース 教育実践学専修 の選択問題)

三

次の文章は、教室に妊婦やガン患者、障がいを持った人を招くなどの取り組みを通して「いのちの学習」を行っている小学校教諭金森俊郎の実践を紹介する「金森俊郎といのちの学習―生と死のリアリティの回復を求めて―」から抜粋したものである。

「いのちの学習」の土台には、なぜ「豊富な体験と自分の言葉との確かな結びつき」が必要なのか。金森の教育実践の特色や意義に即し、この問いについて掘り下げ、四〇〇字以内で述べなさい。(四〇点)

非公開

非公開

非公開

(田中耕治編著、『時代を拓いた教師たち』、二〇〇五年、日本標準、二一四～二一八ページ、抜粋・一部改変)

(四)・(五) は、学校教育教員養成課程 小・中学校教科教育コース 国語教育専修および特別支援教育コース 特別支援教育専修 の選択問題)

四 次の〔A〕～〔C〕はいずれも、『後拾遺和歌集』に収められた平安時代中期の歌人・大中臣輔親おほなかとみのすけちかの和歌わがきとその詞書ことばがきである。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(二五点)

非公開

(久保田淳・平田喜信校注、新日本古典文学大系 8 『後拾遺和歌集』、岩波書店、一九九四年、一六〇・七二〇・九六一ページ、一部改変)

- (注)
- 1 関——ここでは和歌にも出てくる「逢坂の関」のこと。
 - 2 仕へ人——ここでは大中臣輔親に仕える者のこと。
 - 3 とぶさ——木の梢。

問一 傍線部①「あからさまに」・⑥「日ごろ」の意味を答えなさい。

問二 空欄(②)に入れるのにふさわしい単語を答えなさい。

問三 傍線部⑦「なむ」と文法的に同じ「なむ」を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア その男、しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。

イ 盛りになれば、髪もいみじく長くなりなむ。

ウ 山の端逃げて、月を入れずもあらなむ。

エ 御送りして、とく往なむと思ふに、遣はさざりけり。

問四 傍線部③「逢坂の……」の和歌全体を現代語訳しなさい。

問五 傍線部④「都の花のとぶさ」・傍線部⑤「下枝しづえ」がそれぞれ指すものを、「B」の詞書から五字以上一〇字以内で抜き出しなさい。

問六 「C」の詞書と和歌からうかがえる「輔親」と「女」との間に交わされた応答の面白さについて、説明しなさい。

問七 出典である『後拾遺和歌集』は、平安時代後期に白河天皇の命を承けた藤原通俊によって編まれた歌集である。一〇世紀初頭の『古今和歌集』に始まり一五世紀まで二二度にわたり編まれた、このような歌集のことを何というか、漢字で答えなさい。

五

次の文章は『後漢書』「陳寔伝」の一節である。本文と語釈をよく読んで、以下の各問に答えなさい。なお、設問の都合上、返り点や送り仮名を省いた箇所がある。(一五点)

非公開

【語釈】

○(陳寔)後漢の人。その高潔な行ないは人民の模範となった。○整払(身なりを整える)。○子孫(子と孫)。
○性成(その人の)性質になる。○稽顙(ぬかずく)。○婦罪(自分の罪を認める)。○匹(反物を数える単位)。

問一 傍線部①「色」と同じ意味を持つ「色」を含む言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

- a 景色 b 気色 c 色即是空 d 好色 e 色彩

問二 傍線部②「夫人不可不_レ自勉」を全てひらがなで書き下し文にしなさい。

問三 傍線部③「遂_ニ至_ニ於此_ニ」はどのようなことを意味するか。指示代名詞の指す内容が分かるように説明しなさい。

問四 傍線部④「令^ム遺^ム絹^ニ匹^ニ」ということがなされたのは何故か、理由を説明しなさい。

問五 (⑤) に補うのに適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- a 復
- b 不
- c 故
- d 勉
- e 常

問六 右の話から「梁上の君子」という成語が生まれたが、この成語の意味を表わす言葉を文中から選んで記入しなさい。

国語 解答用紙 (前期日程)

小学校教育コース 教育実践学専修

受験番号

(注意 この解答用紙は表裏二ページになっている。)

国語	得点

一

問一	a	きょうねん	b	かふ	c	もぐ(つて)	d	ほうせい	e	ひっぱく
問二	① オ	② ア								

問三 弟は、「容れ物」としての女性からだは、精密機械のようだが、母親を見ると「中味はパー」で、「おしゃべりは実がない」。「母親というのはテレビと似ており」、「箱の方が圧倒的にレベルが高い」と思っている。

問四 母親といえば、海のイメージだが、若くして母親になった小娘たちは、おさなくて未熟で頼りない様子なので、まだ海にはなれずに、雨上がりの水溜まりくらいでしかないという意味。

問五 弟は、自分と母親とは、性格がまったく似ていないので、どこかに生みの母親がいるんじゃないかと思っているから。

問六 弟と母親は、こけた頬や口元の皺までそっくりで、正真正銘の親子と思っている。四十年代半ばまで自分の出生に疑問をもっている弟のことを、わたしは不思議に思っている。

二

問一	a	操縦	b	機微	c	d	陥る	e	局限
問二	プリンシプル								

問三	2	しかも	3	ところが					
----	---	-----	---	------	--	--	--	--	--

問四 何の区別もない人間とは、例えば夫婦とか、あるいは恋人のように、ある一人の人間ともう一人の人間とが、お互いに浸透し合って支え合うことにより、もの見方や考え方などが一つになって一人の人間のようになったもの。

問五 三者とも、人間と人間、あるいは人間と自然がお互いに浸透し合って共感、あるいは同感するという点では共通している。
相違点として、①は二人の人間の間で成立するものであり、お互いに助け合って生きていくという人間の生きる道として捉えている点で異なる。②は、他の人間、あるいは自然を我物として支配するために、自然、あるいは人間と浸透し合うという点で異なる。③は、自然との対照により出でる無常という深い感動として捉えており、その点で異なっている。

国語 解答用紙 (前期日程)

小・中学校教科教育コース 国語教育専修
特別支援教育コース 特別支援教育専修

(注意 この解答用紙は表裏二ページになっている。)

一

問一	a	きょうねん	b	かふ	c	もぐ(つて)	d	ほうせい	e	ひっぱく
問二	①	オ	②	ア						

国語
得点

受験番号

問三 弟は、「容れ物」としての女性のからだは、精密機械のようだが、母親を見ていると「中味はパー」で、「おしゃべりは実がない」。「母親っていうのはテレビと似ており」、「箱の方が圧倒的にレベルが高い」と思っている。

問四 母親といえば、海のイメージだが、若くして母親になった小娘たちは、おさなくて未熟で頼りない様子なので、また海にはなれずに、雨上がりの水溜まりくらいでしかないという意味。

問五 弟は、自分と母親とは、性格がまったく似ていないので、どこかに生みの母親がいるんじゃないかと思っっているから。

問六 弟と母親は、こけた頬や口元の皺までそっくりで、正真正銘の親子と思っっている。四十代半ばまで自分の出生に疑問をもっっている弟のことを、わたしは不思議に思っっている。

二

問一	a	操縦	b	機微	c	d	陥る	e	局限
問二	プリンシプル								

問三	2	しかも	3	ところが					
----	---	-----	---	------	--	--	--	--	--

問四 何の区別もない人間とは、例えば夫婦とか、あるいは恋人のように、ある一人の人間ともう一人の人間とが、お互いに浸透し合っって支え合うことにより、もの見方や考え方などが一つになって一人の人間のようになったもの。

問五 三者とも、人間と人間、あるいは人間と自然がお互いに浸透し合っって共感、あるいは同感するという点では共通している。
相違点として、①は二人の人間の間で成立するものであり、お互いに助け合っって生きていくという人間の生きる道として捉えられている点で異なる。②は、他の人間、あるいは自然を我物として支配するために、自然、あるいは人間と浸透し合うという点で異なる。③は、自然との対照により出でる無常という深い感動として捉えられており、その点で異なっている。

四

問一	① ほんのちよつと	⑥ 数日の間 (何日もの間も可)	
問二	こそ	問三	ウ
問四	逢坂の関路を越えるとしても、都にいる人に我が心が通わないことがあるだろうか (いや、必ず心は通うはずだ)。		
問五	④ 源遠古が娘	⑤ かれが許にありける女	
問六	輔親は、探しあぐねていた「牛」を交際していた女の家から取り戻したが、その折に女は、「牛」に自分から離れてしまった輔親の心が恨めしいという意味の「憂し」を掛けた言葉を添えた。それに対して、輔親もまた「牛」と「憂し」を掛けた和歌を詠み、女に切り返した。		
問七	勅撰和歌集		

五

問一	b
問二	それひとはみづからつとめざるべからず。
問三	泥棒になるまでに墮落してしまうこと。
問四	本来、窃盗をするような悪人ではない者が泥棒になってしまったのは、貧困のためだと考えたから。
問五	a
問六	盗